

会派視察・研修報告書

会派名 市 民 の 会

代表者名 仙石 三喜男

1 日 に ち	令和 6 年 10 月 9 日 (水) ～ 11 日 (金)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	全国市議会議長会研究フォーラム トーサイクラシックホール岩手
3 参 加 者	仙 石 三 喜 男
4 調査・研修の テーマ	主権者教育の新たな展開
5 主な内容	1 日目 基調講演、 パネルディスカッション「地方議会の課題と主権者教育」 2 日目 課題討議「主権者教育の取組報告」
6 所感、提言事項、課 題等	【議員氏名】仙石三喜男 今回で 19 回目となる本フォーラムでのテーマは、「主権者教育の新たな展開」で、本市議会が実施している活動と他市議会などが実践されている新たな取組や、視点との違いなどを学ぶ思いを持って参加。 1 日目のパネルディスカッションでは 4 名のパネラーからの報告があり、特に関心を持った報告内容は、法政大学の土山教授の「誰のための主権者教育」か の内容でした。「議会」が「主権者教育」をしていると称して「高校生議会」などを実施することは、選挙により市民から負託された議員の組織である議会が本当にやることか、疑問の指摘がされています。土山教授は、議会としてできること、何をなすべきかをしっかり向き合うことが求められるとの意見で、例えば、多治見市議会で実施している多治見工業高校へのおとどけセミナーのように高校生への地元愛や民主主義の大切さを求めたシチズンシップ教育的な内容のやり方が求められるのではないかと受け止めたところです。 2 日目の課題討議「主権者教育の取組報告」では、3 市の市議会の事例報告があり、コーディネーターからは主権者教育は、基本的にはシ

	チズンシップ教育であるべきとの冒頭の報告があり、1 日目の土山教授の指摘の本意が少し深まったような気がした報告でした。 また、高校生が地元に住るときに政治に触れ合う機会が低下しているとの指摘があり、多治見市議会の高校へのおとどけセミナーの実践は改めて良いことだと認識した次第です。 例えば、伊那市議会の報告では、高校生の議会傍聴、意見交換会を通して出された意見に対する検討、そして市への要望・提案をした結果について、市議会の対応及び回答として報告するまでの流れを学び、本市議会も高校生の意見に対する対応について検討が必要かと反省しました。 2 日目及び 3 日目の「平泉町・一関市 世界遺産観光誘客の取組 視察」については、平泉町の中尊寺を中心とした世界遺産の施設見学と取組について平泉町の観光商工課菊池課長さんの概要説明のお話を聞きました。現状、平泉町は平成の合併をされず 7,000 人の人口をキープするのが大きな課題で、今後、観光誘客事業の拡大がどこまでできるかが大きなカギとなっている状況です。今後、多治見市と同様、滞在型観光にまちを挙げて取り組むことが求められる状況です。 3 日目は、「世界遺産平泉と一関のマーケティングによる地域づくり」について、一関 DMO の方より「ふるさと納税応援寄付受託事業」を資金源とした地域づくりチーム事業による取組事業の報告を受けました。DMO は、受託事業として寄付金の 5 % を市から頂き運営されており、2023 年では 14.5 億円の寄付があり約 7 千万円の収入で運営されております。2025 年の寄付額を目標 18 億円に据えて、市と DMO がウイン・ウインの関係で頑張っておられ、まちづくりを推進するやり方としては本市も見習っても良い政策かなと判断します。 以上
7 写 真 等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意	

※視察先、研修先ごとに 1 枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。